



和



第23号（平成24年 新春号）

編集：大阪市立総合医療センター 広報小委員会
(〒534-0021 大阪市都島区都島本通 2-13-22)
<http://www.city.osaka.lg.jp/contents/wdu270/ocgh/>

■ 新年あけましておめでとうございます

大阪市立総合医療センター 病院長 岸 廣成

大阪市立総合医療センターは、市制 100 周年記念事業の一環として高度化・多様化している市民の医療ニーズに応える目的で、平成 5 年 12 月に既存の 5 つの市民病院を再編して開設されました。

その後、小児医療、周産期医療（産科・新生児科領域）、救急医療など厳しい労働環境の診療科を志す医師の減少、安全な医療の提供など医療の質の向上を求める声の高まり、自治体の財政状況の悪化など、総合医療センターを取り巻く環境が大きく変化したため、平成 20 年度から「医療機能」・「医療の質」・「経営の健全化」の 3 つの視点から策定した病院事業改革を実施しています。計画では今年度が最終年となっています。

「医療機能」の面では市民の生命と健康を守るために必要な医療を提供する目的で、疾患別の重症患者受入病床（母体・胎児集中治療室や精神科身体合併症救急病床の設置、感染症病棟の陰圧環境の再整備、新生児集中治療病床の増床）、政策医療（急性心筋梗塞、脳卒中、がん、糖尿病、救急医療、災害医療、周産期医療、小児医療、精神医療、感染症医療）や入院患者さんが早期に社会・在宅復帰できるよう低侵襲医療（放射線治療、内視鏡治療、血管内治療）の充実に取り組んでおります。

「医療の質」の面では、安心して医療を受けられる環境と快適な療養環境の整備を目的として、職員の確保や育成を担当する臨床教育・研修部、医療安全対策を担当する医療安全管理部、患者さんへの支援を一元的に行う患者支援センターを設置するなど機能の充実を図りました。

特に、医師や看護師など流動性の高い職員の確

保・定着を図る目的で繁忙度の高い診療科医師の当直明け勤務の軽減や病棟看護師の増員（7 対 1 看護体制の実施）など労働環境の改善も行いました。



「経営の健全化」の面では、病院の経営基盤の安定を目的として病院固有の事務職員（診療報酬担当事務職員、メディカルソーシャルワーカーなど）の採用や DPC 対象病院（入院医療費の包括支払い制度）への参加とともに手術室や血管内治療室の増設、放射線治療機器の更新、外来化学療法室の増床なども行っております。

平成 24 年度には、電子カルテの導入を機に、自動精算機や再診受付機の導入、完全予約制外来の拡大などによる外来診察待ち時間の短縮など外来環境の改善、これまでの 3 次救急患者さんを中心にした救命救急医療から地域医療機関や救急隊から緊急診療要請される救急患者さんの受入拡大に向けた環境の整備、脳卒中の急性期治療病床や小児集中治療病床の設置などを計画しております。

医療機能面では、新たに個別化医療（個々の患者さんが保有する疾患に対する遺伝子配列の違いに対応した医療など）の実施、画像誘導放射線治療器（IGRT）や立体画像の下で手術を行う最新の内視鏡外科手術装置の導入など低侵襲医療の更なる充実を計画しています。また、医療安全対策の強化、患者さんへの相談支援体制の充実、優秀な職員の確保など医療の質の向上にかかる取り組みにつきましても継続して実施する予定としております。

■ 疾患解説シリーズ

～～ 白内障 ～～

大阪市立総合医療センター 眼科部長 森 秀夫

《病気の説明》

眼球のしくみはカメラと似ていて、カメラのレンズに当たるのが水晶体です。このレンズ＝水晶体がくもる、濁るのが白内障です。

白内障はいろいろな原因でおこり、赤ちゃんの白内障（先天白内障）さえありますが、圧倒的に多いのが加齢性白内障です。多くの方は60歳代から水晶体が濁り始めます（初発白内障）。この段階では視力に影響はありません。年とともに徐々に濁りが増してゆくと、ものを見るのが不自由という程ではないのですが、「何となく霧がかかったような感じ」とか「煙の中にいるような感じ」という症状が出始めます。この時期に眼科を受診する方もおられますが、放置している方が多いと思われます。さらに濁りが進むと、ものがかすんでよく見えなくなります。そのため、「メガネが合わなくなった」と勘違いして、メガネ屋さんに行く方も多い時期です。メガネ屋さんで検査してもらっても、合うメガネがないため、眼科受診を勧められたりします。さらに濁りが進むと、本や新聞を読むことが難しくなり、さらに進むと人の顔の判別もできず、最終的には明暗が分るだけという状態になってしまいます。

以上のような変化は、両眼に起こることが多いのですが、人によっては片眼だけが進行し、もう片眼の進行が遅いこともあります。

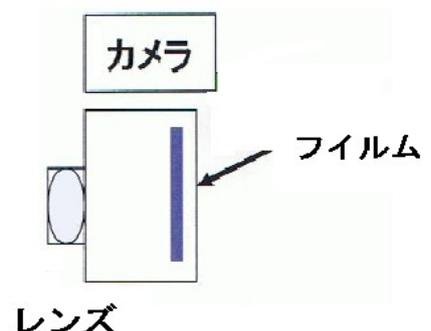
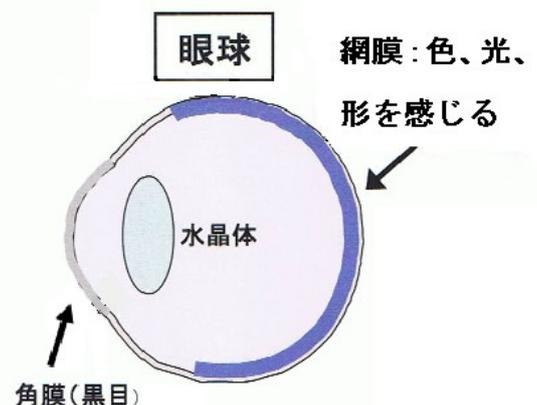
《治療》

白内障は手術で治します。白内障の点眼薬は進行を遅らせるのが目的であり、白内障を軽くする作用はありません。『一般に』白内障手術の成功率は非常に高く、99%以上成功しますが、100%ではありません。また『一般に』というただし書きをつけたのは、白内障の中にも、こじれていて手術が難しい症例があるからです。

実際の手術は、黒目と白目の境目を少し切開し、濁った水晶体に超音波を当てて吸い出し、人工水晶

体（眼内レンズ）を入れるという作業です。普通局部麻酔で行い、30分程度で終わります。ほとんど痛みはありません。例えて言えば、カメラのレンズが濁ってしまったので、レンズの交換をするということです。

最後に大切なことがあります。それは、白内障は視力を損なう多くの病気の一つに過ぎず、他にも緑内障、糖尿病網膜症、網膜剥離、血管閉塞、黄斑変性など様々の病気の可能性があります。眼が見えづらくなった時、自分自身や周りの人が「きっと白内障だろう」と思い込んで眼科受診が先延ばしになり、やっと受診してみると、実はもっと早急に治療を要する他の病気が見つかって、結果的に手遅れになった、というような悲劇が珍しくありません。今までより見えにくくなった時には、早めにお近くの眼科医院を受診し、必要なら総合医療センター眼科を紹介して頂いて下さい。



■ がんの診療について ～～ 最新の放射線治療 ～～

大阪市立総合医療センター 放射線腫瘍科医学物理士 伊東 宏之

➤ 放射線治療の動向

わが国では高齢化が進み、がん罹患患者数及び死亡率の割合は右肩上がりの現状にあります。

現在では、国民の二人に一人ががんに罹患し、三人に一人ががんで亡くなると言われており、がん対策は重要な政策の一つです。そのような状況の中で、低侵襲な放射線治療は高齢者にも施行が可能であるため、関心が高まってきています。安全でより質の良い治療を提供すべく、当院においても17年間使用した放射線治療装置リニアックを廃棄し、新しいリニアックへ更新する事になりました(図1)。

現在、治療再開へ向けて新リニアックの調整を進めていますが、新しい装置になると次のような最新治療が可能となります。

➤ 強度変調放射線治療 (IMRT)

コンピュータ技術の進歩の恩恵で、放射線治療も高度な照射法が可能となりました。治療中の放射線強度が一定(水道での蛇口が開きっぱなしのイメージ)であったのに対し、IMRTでは意図的に放射線に強弱(水道の蛇口を開けたり閉めたりするイメージ)をつける事で、凹凸のある腫瘍にもその形にピッタリ沿った線量分布を実現する事が可能になりました(図2)。

放射線を当てたくない部位(リスク臓器)が腫瘍に近接している場合でも、リスク臓器を避けながら腫瘍だけに放射線を集中させる事ができます。ただし、IMRTは非常に精度を要する治療なので、IMRTを受けられる場合は治療時間(10～20分)の間は動かないように気をつけて下さい。

このような最新治療を正確に施行できるようにするのが医学物理士の役割です。できるだけ早く診療を再開すべく、放射線治療スタッフ一丸となって調整を行ない、通常の放射線治療は2月中に再開予定です(図3)。また、本稿で紹介したIMRTは、厳密な調整を行い、今年中に開始できるよう鋭意努力しております。

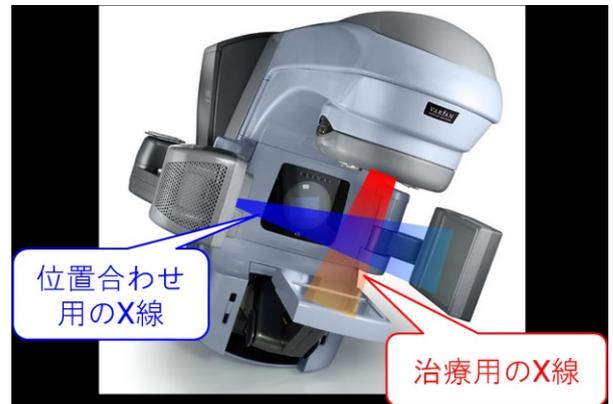


図1: 新型リニアック

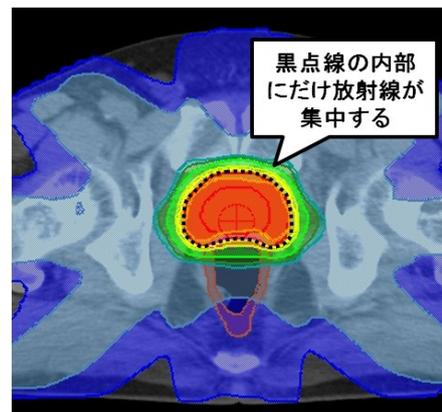


図2: IMRT の線量分布



図3: 調整中の当院リニアック

■ コメディカルのお仕事紹介「病院薬剤師」

当院では、外来の患者さんには院外処方せんをお渡しし、保険薬局でお薬を受け取っていただいています。それでは病院の中で薬剤師はどんな仕事をしているのでしょうか。

病院の薬剤師は主に入院患者さんのお薬に関わっています。まず患者さんが入院された時には、持参していただいたお薬を薬剤師が調べて、医師や病棟スタッフに連絡します。そして治療が始まると、薬の量や飲み方、飲み合わせや副作用などのチェックを行い、患者さん一人ひとりに適した形でお薬を調剤します。また病院では注射薬が多く使われますが、注射薬も内服薬と同じように内容を確認した上で、混合調製をしています。特に抗がん剤については、治療の計画を立てるところから薬剤師が関わり、すべての患者さんの抗がん剤を無菌的に調製しています。また、市販されていない特殊な薬や、栄養補給が必要な患者さんのための高カロリー輸液なども作っています。

病棟では、入院患者さんのベッドサイドにうかがって薬の説明をしたり、薬についての質問や相談に応じたりしています。また、医師や専門スタッフとチームを組み、栄養サポート、緩和ケア、感染制御、糖尿病教室、腎臓病教室などにも積極的に取り組んでいます。

このように、薬剤師はお薬のある様々な場面で、治療が有効に安全に進むよう努力しています。お薬についての質問等、どうぞお気軽に薬剤師にお尋ねください。



抗がん剤の調製風景

■ 心配なこと・気がかりなことは**総合医療相談窓口**へ

現在、総合医療センターでは、医療、福祉、看護についての総合医療相談窓口を設置し、認定看護師による専門的な相談にも応じています。この相談には予約が必要ですので、まずは外来看護師に相談してください。

認定看護師	概要	担当曜日
がん性疼痛看護	がんの痛みがあり、痛み止めの使い方・薬の副作用、日常生活の不安等について	金曜日 午前
緩和ケア	がんの患者さんの息苦しさ・だるさについて ご本人・ご家族が抱えている不安や悩みについて	火曜日・木曜日 午前
がん化学療法	抗がん剤治療予定の方・治療中の方の、抗がん剤の副作用等への不安や困っていることについて	金曜日 午後
皮膚排泄ケア	ストーマ装具の相談、皮膚のただれ、日常生活での悩み・不安等について	火曜日 午前・午後
糖尿病看護	糖尿病の薬、食事、運動、足のケア、日常生活等について	月曜日～水曜日

そのほかに

がん相談支援センター

がん相談員が、がんに関する一般的な情報を提供し、療養上の相談をお受けします。

その他看護相談

その他の看護に関することも、随時相談をお受けしています。

